

220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201
和をもって貴しとなす	破れ鍋に綴じ蓋	笑う門には福来る	渡る世間に鬼はない	若い時の苦勞は買ってでもせよ	論より証拠	論語読みの論語知らず	ローマは一日にしてならず	労多くして功少なし	瑠璃も玻璃も照らせば光る	類は友を呼ぶ	樂は苦の種、苦は樂の種	樂あれば苦あり	來年のことを言えば鬼が笑う	弱り目に祟り目	寄らば大樹の陰	よしの髓から天井をのぞく	病は氣から	藪をつついて蛇を出す	柳の下にいつもどじょうはいない
ツ	ケ	エ	イ	キ	ト	テ	コ	ソ	ス	シ	タ	オ	ウ	カ	チ	ア	ク	セ	サ

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア
議論するよりも証拠を示したほうが、物事をすっきり解決することができる。	書物から得た知識があっても、実行が伴わない。	他の人と仲よくやっていくことが、何よりも大切だということ。	頼りにする相手を選ぶときには、できるだけ力のある人を選んだ方がいいということ。	樂をしていると後で苦勞することになり、逆に、苦勞をしておくと後で樂ができるということ。	苦勞が多いわりに効果が少なく、報われないこと。	余計なことをして、かえって損をしたり、災難にあったりする。	才能や素質のある人は、どこにいても目立つということ。	気の合う人や似ている人は、自然に集まって仲間になるものだという。	偶然うまくいった時と同じやり方をしても、いつもうまくいくとは限らないということ。	長い時間と勞力をかけて初めて、大きなことを成し遂げることができるとのこと。	どんな人にも、その人にぴったり合う相手がいるということ。また、そのような人と一緒になればうまくいく。	病氣は氣持ち次第で、良くも悪くもなるということ。	若い時に苦勞しておく、その経験が後で役に立つ。だから若い時には進んで苦勞したほうが良いということ。	不運なことや災難が、何度も重なって起こることのたとえ。	世の中は樂しいことばかりではないので、樂しいことの後には、必ず苦しいことが来るとのこと。	笑い絶えない家は、自然と幸せが訪れる。また、どんなに辛い時もくじけずに笑っていれば、幸せがやってくる。	将来のことはわからないので、あれこれ言っても仕方ないというたとえ。	世間には、思いやりのない冷たい人だけでなく、困った時に助けてくれる親切な人もいるということ。	自分の狭い知識や経験だけで、広い世界や大きな問題についてを判断しようとする。